

毎日ムック

2023年1月31日発売掲載

病院 2023 最前線

情熱医療 Professional Doctor
プロフェッショナルドクター

脳動脈瘤コイル塞栓術

—— 特別インタビュー ——

大西脳神経外科病院 大西 宏之 医師

パソコンやスマートフォンから
特設サイトにて掲載内容をご覧いただけます

プロフェッショナルドクター 大西脳神経外科病院





医療法人社団 英明会
大西脳神経外科病院

情熱医療 Professional Doctor
プロフェッショナルドクター
脳動脈瘤コイル塞栓術

兵庫県明石市大久保町江井島 1661-1
TEL 078-938-1238
【受付時間】8:30~11:30 / 13:30~16:30
【休診日】土、日、祝、年末年始
※救急の場合は24時間365日
対応いたします。(要連絡)
http://www.onc.akashi.hyogo.jp/



副院長
脳神経外科部長、
脳血管内治療主任部長、脳卒中センター長

大西 宏之

おにし・ひろゆき
医学博士、大阪医科大学臨床教育専攻教授、日本
脳神経外科学会認定脳神経外科専門医、日本脳
神経血管内治療学会認定脳血管内治療専門医、
日本脳神経外科学会評議員、近畿脳神経血管内
治療学会世話人



「開頭せずに脳動脈瘤を治療する」
「脳動脈瘤を治療する」

開頭せずに脳動脈瘤を治療 センターとコメディカルの団結力で時間との勝負に挑む

低侵襲で早期回復が可能な 脳血管内手術を積極的に実施

大西脳神経外科病院は、脳神経外科を専門とする単科病院であり、脳卒中の急性期治療で地域の絶大な信頼を誇る。最新の設備と技術に支えられ、脳神経外科のスペシャリストが治療に当たっている。脳神経外科治療は、治療器具や技術の進歩に伴って、切らずに治す脳血管内手術が可能になってきた。脳卒中の症状の一つでもあるくも膜下出血を引き起こす脳動脈瘤は、マイクロカテーテルを足の付け根の大腿動脈から挿入する「脳動脈瘤コイル塞栓術」で、頭部を切開することなく治療ができる。

「この術式を採用するかは患部や患者さまの状態に応じて選択しますが、開頭手術とコイル塞栓術の両方が可能な場合は積極的にコイル塞栓術で行うようにしています。侵襲が少なく術後の回復も早いので、患者さまもほぼコイル塞栓術を希望されます」と大西副院長は語る。動脈瘤の形状によっては「瘤のくびれが広いもの、コイル塞栓術で対応できないことがあったが、2019年に新たに導入した「フロアダイバスターシステム治療」によってそのような瘤の治療も可能になった。

設備と専門スタッフを集約した 脳卒中センターでより高度な医療を

同院ではより高度な専門治療を提供するため、脳卒中センターを設置して365日24時間対応できる体制をとっており、2022年の総手術件数は850件※を数える。「脳卒中診療については、学会が主体となって、センター化」の構想を進めています。高度専門治療に特化し、設備や人的資本を集約した施設を地域に置くことにより、各地域の患者さまに対し迅速でスムーズな治療の提供を可能にしています。この地域では当院が中心となって脳卒中医療を展開しています」と、脳卒中センター長でもある大西副院長はセンターの重要性を語る。

将来的に予防も含め急性期、回復期、維持期とトータルな医療を提供できる体制が必要だという。トータルなケアでも第一線を担う「脳卒中治療は医者一人ではなく、放射線技師や看護師や薬剤師など、コメディカルが一体となって行うものです。時間との戦いですから、コメディカルが強く結びついてチームワークを発揮できるのは、単科病院ならではの強みだと言えます」と大西副院長は最後にチーム医療の重要性について語ってくれた。

©2021年1月~2021年12月

1案

「仕上げ」

修正の有無に○を付けてください	者・員	原稿送付 (弊社記入用)	初校 12 / 22	再校 /	三校 /	四校 /	完成日(審査) /	入稿(校数) /
-----------------	-----	-----------------	---------------	---------	---------	---------	--------------	-------------



東京都中央区日本橋小伝馬町 7-12 KDビル2F
担当: 海保 寛之 E-mail: kaiho@ika-ad.jp

TEL. 03-5652-3327
FAX. 03-5652-3328

医療機関の広告掲載は医師の同意を得た上で掲載することとされています。掲載内容が医師の同意を得た上で掲載されていることを確認してください。掲載内容が医師の同意を得た上で掲載されていることを確認してください。掲載内容が医師の同意を得た上で掲載されていることを確認してください。

※本誌掲載および送付シートは著作権法の保護の対象となる著作物であり、無断で転送・複製・転載・転用することは厳しくお断りいたします。